

◆開催概要

日時：11月10日(木) 18:30～21:10

場所：市役所6階大ホール 出席者：検討会メンバー20名

まちづくりの方針について出た主な意見

まちづくりの方針については、3班で意見を出し合った結果、大きく以下の4つの方針に意見の集約、共有が図られました。

水産業と観光を中心に活気のあるまち

- ・将来的に展望が見えるまちづくり
- ・宮古の発展は鰐ヶ崎から
- ・新しい産業、発電
- ・住んでよかった鰐ヶ崎のまちをなくさせない
- ・津波を恐れず海に親しめる鰐ヶ崎
- ・鰐ヶ崎を見れば宮古が分かるようなまち
- ・個人商店はまちの活性化の原点と思う

水産業を中心とした活気あるまち

- ・加工団地一タラが取れる
- ・鰐ヶ崎地区は漁業加工工場一カマボコ合弁会社
- ・水産と海運
- ・水産のまち(市経済の要)
- ・鰐ヶ崎は港町なので漁船が入港してにぎやかなまち
- ・漁業基地としての機能を期待
- ・水産加工を中心に近代化
- ・鰐ヶ崎は漁港としての役割を持っている
- ・水産業の発展のための復旧、復興
- ・漁業者が安全に活動できる漁港整備
- ・商業、工業、水産関係、施設集中配置
- ・漁業水産業の活性化(施設充実)

観光による活性化

- ・魚市場があるので、水揚げされた魚を食べる所があればいい
- ・味のまち
- ・グルメを提供
- ・観光のまち(浄土ヶ浜の景勝を支えてきた)
- ・浄土ヶ浜を生かしたまち
- ・鰐ヶ崎の町を通って浄土ヶ浜に行くので観光通りにして欲しい、観光ルート
- ・観光と歴史
- ・古い風景を大切に
- ・清水川を掘割にして観光にも使用する
- ・桜並木通りを浄土ヶ浜まで続けてほしい
- ・サイクリングロードがあれば良い
- ・観光のお客様に寄ってもらえる建物(物産、避難ビル)にする

安全で安心して暮らせるまちづくり

- ・防災を強化したまちづくり
- ・津波から安全安心なまち
- ・住みたい住み良いまちづくり
- ・住まいは基本的に高台移転
- ・漁民の住まいは高台、作業場は海岸
- ・災害の可能性のある場所は非可住地
- ・山裾だけでなく海側にも住めるまち
- ・全体的に土地の嵩上げ
- ・区割りを整理して町割を明確にしたい
- ・住宅地(高台)、工業地の区割り
- ・公共施設集中配置
- ・福祉、医療の充実
- ・近未来的な防災施設を
- ・当然避難ビルを作ると思うが鰐ヶ崎公民館としての機能を持つものとして欲しい
- ・親が安心して通学させられる学校の整備
- ・直ぐ逃げられる道路
- ・国道45号に抜ける道路がほしい
- ・道路整備(避難路)
- ・防波堤建設に併せ高架橋の建設
- ・湾岸道路をつくる(幅10m以上)
- ・回廊にできる防潮堤
- ・防潮堤整備
- ・防潮堤は道路としても使用できるように
- ・海が見える道路と防潮堤が一緒
- ・防潮堤より防波堤の整備が鰐ヶ崎のため
- ・防潮堤整備は鰐ヶ崎から活気を失う原因になる
- ・津波からの復興を発信していく
- ・防災教育を重点的に小中学校で考える
- ・大局的な方針はスピード感を持って進めてほしい
- ・安全安心を第一に必要最小なものを是非実現してほしい

自然や健康づくりが楽しめるまち

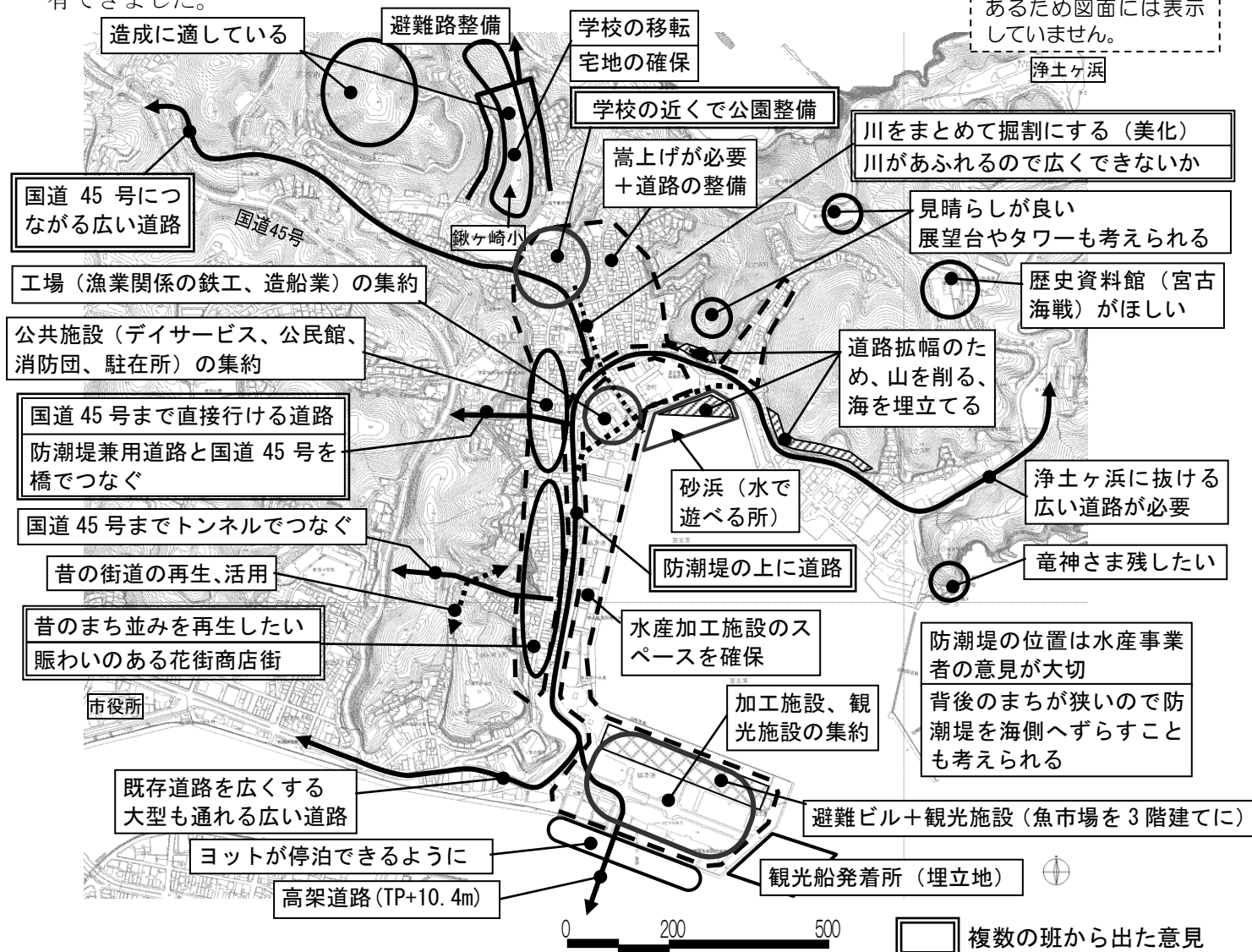
- ・周辺の山々など花一杯のまちにしたい
- ・防潮堤は緑化するなど緑豊かなまち並みにしたい
- ・何といても海
- ・公園用地確保
- ・健康と憩い
- ・楽しめる場所に
- ・スポーツ施設、(大型の)公園等のあるまち
- ・カッターレースをやりたい
- ・ジオパークとマリンスポーツ

老人も子どもも住みたいと思うまち

- ・今まで通りのつきあいのできるまち
- ・老人(高齢者)と子どもが集うまち
- ・震災前の鰐ヶ崎にして欲しい
- ・避難している人が少しでも多く戻って来るまち
- ・子どもたちが将来戻ってきて住みたいと思えるようなまち
- ・子どもたちが楽しめるまち(漁業との関係)

用地別の土地利用の方針について出た主な意見

用地別の土地利用の方針について、3 班で意見を出し合った結果、以下の図に示すような意見が挙げられました。特に、河川堤防に関する意見、避難場所や避難道路に関する意見が多いほか、地区特性を生かした土地利用に対する意見が共有できました。



今回の検討会で共有できた方針

検討会で確認し、共有できた方針を整理すると以下ようになります。これらの方針をもとに、次回以降の検討で議論を深めていきます。

◆地区復興まちづくりの方針について

- ・水産業と観光を中心に活気のあるまち
- ・安全で安心して暮らせるまちづくり
- ・自然や健康づくりが楽しめるまち
- ・老人も子どもも住みたいと思うまち

◆土地利用の方針について

- ・住宅と働く場所を区分することを考える。
- ・住宅地は高台の造成地や嵩上げして道路を整備した安全な場所に考える。
- ・鉾ヶ崎の昔ながらの街並みを再生させることを考える。
- ・浄土ヶ浜までの広い道路を整備し、海側に水産加工施設や観光施設を配置することを考える。
- ・防潮堤を整備することを考える。
- ・防潮堤の上、または防潮堤と同じ高さで道路を整備することを考える。
- ・国道 45 号に繋がる避難道路の整備を考える。



★話題提供★

検討に先立ち、検討メンバーの 1 人から次の 4 点が提案されましたので、紹介します。

- ①防災道路として高架道路が効果的である。
- ②避難ビルには、情報発信機能、住民サービス機能を兼用させ復興発展のシンボルとすることが大切である。
- ③津波に強く便利な交通手段としてミニモノレールを検討すべきである。
- ④鉾ヶ崎の歴史的遺産と環境を発信する施設が必要である。